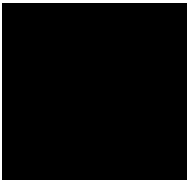


厚生労働大臣 殿

開設者名  
公立大学法人福島県立医科大学  
理事長 竹之下 誠一



福島県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
氏 名	公立大学法人福島県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

公立大学法人福島県立医科大学附属病院
--------------------

3 所在の場所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地	電話(024)547-1821
---------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等 ①循環器内科 ②血液内科 ③消化器内科 ④リウマチ内科 ⑤脳神経内科 ⑥呼吸器内科 ⑦漢方内科 ⑧腫瘍内科 ⑨小児腫瘍内科 ⑩甲状腺・内分泌内科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有
外科と組み合わせた診療科名 ①消化器外科 ②呼吸器外科 ③乳腺外科 ④小児外科 ⑤心臓血管外科 ⑥形成外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
---

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有
歯科と組み合わせた診療科名 ①歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

病理診断科、リハビリテーション科
------------------

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
49床	2床	14床	一床	713床	778床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	452人	202人	553.9人	看護補助者	95人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	7人	8.3人	理学療法士	14人	臨床検査 衛生検査	臨床検査技師 76人
薬 剤 師	50人	1人	50.7人	作業療法士	6人		衛生検査技師 0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	11人	そ の 他	0人
助 産 師	37人	0人	37人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	771人	26人	786.8人	臨床工学士	19人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	2人	0.8人	栄 養 士	0人	その他の技術員	18人
歯科衛生士	2人	1人	2.4人	歯 科 技 工 士	0人	事務職員	141人
管理栄養士	11人	0人	11人	診療放射線技師	51人	その他の職員	41人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	47.2人	眼科専門医	20人
外科専門医	60.3人	耳鼻咽喉科専門医	15人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	13.3人
小児科専門医	32人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	5.7人	整形外科専門医	28.7人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	9.7人
産婦人科専門医	15.3人	救急科専門医	13.2人
		合 計	286.4人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 鈴木 弘行 ) 任命年月日 平成31年4月1日

【学内】

- 平成24年5月～平成26年4月、平成28年4月～ 医療事故防止対策委員会 委員
- 平成28年4月～ 医療クオリティ審議委員会 委員
- 平成30年度 医事紛争対策専門委員会 委員

【学外】

- 平成28年～平成30年3月 日本呼吸器外科学会 地域個別調査部会員
- 平成30年2月1日～6月30日 他施設医療事故調査委員会 委員
- 平成30年9月17日～18日 平成30年度第1回特定機能病院管理者研修 受講
- 令和2年1月7日 令和元年度第3回特定機能病院管理者研修 受講予定

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	615.1人	6.1人	621.2人
1日当たり平均外来患者数	1,432.6人	33.2人	1,465.8人
1日当たり平均調剤数	885.9剤		
必要医師数	149人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	21人		
必要(准)看護師数	360人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	282.9m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	12床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積：271.2m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数：4台		病床数：24床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 42.3m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	938.1m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
細菌検査室	86.2m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理検査室	25.7m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理解剖室	121.4m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
研究室	114.5m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	522.7m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	459人



図書室	1,954m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	4室	蔵書数	22万2,000冊程度
-----	---------------------	----------	----	----	-----	-------------

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.8%	逆紹介率	69.7%
算出根拠	A：紹介患者の数	11,416人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,803人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,496人	
	D：初診の患者の数	14,059人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

#### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
佐藤 武寿	福島県医師会	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
田中 明	国立大学法人 福島大学		医療を受ける者、その他 医療従事者以外の者	無	2
渡辺 慎太郎	弁護士		法律に関する識見を有する者	無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）  
 3. その他

#### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有

公表の方法

病院ホームページにて公表している。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
重症低血糖発作を合併するインスリン依存症糖尿病に対する脳死および心停止ドナーからの膵島移植	0人
11C標識メチオニンを用いたポジトン断層撮影による診断 初発の神経膠腫が疑われるもの(生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。)	5人
11C標識メチオニンを用いたポジトン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍(原発性若しくは転移性脳腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))であり、かつ、再発が疑われるものに限る。)	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	203
2	筋萎縮性側索硬化症	0	57	特発性拡張型心筋症	34
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	13
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	0	60	再生不良性貧血	51
6	パーキンソン病	40	61	自己免疫性溶血性貧血	11
7	大脳皮質基底核変性症	0	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンテントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	71
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリイ・トウス病	0	65	原発性免疫不全症候群	0
11	重症筋無力症	123	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	2
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	0	68	黄色靱帯骨化症	42
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	0	69	後縦靱帯骨化症	85
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	9
17	多系統萎縮症	2	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	0	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	5
21	ミトコンドリア病	0	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	90	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	5
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	0	83	アジソン病	5
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	153
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	13
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	0
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	0
34	神経線維腫症	19	89	リンパ脈管筋腫症	21
35	天疱瘡	40	90	網膜色素変性症	0
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	0	92	特発性門脈圧亢進症	11
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	78
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	0	95	自己免疫性肝炎	33
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	72
42	結節性多発動脈炎	5	97	潰瘍性大腸炎	136
43	顕微鏡的多発血管炎	6	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	0	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	40	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	9	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	OFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	439	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	0	105	チャージ症候群	0
51	全身性强皮症	10	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	68	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	197	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	1	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0
113	筋ジストロフィー	13	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	24	167	マルファン症候群	37
118	脊髄髄膜瘤	16	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルティ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	5
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	7
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	4	195	ヌーナン症候群	2
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	6	208	修正大血管転位症	5
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	4
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	5

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	7	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	172	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	21	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	3	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	5	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	14	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	6
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	3
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	106	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	6	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシウスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	3
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	66
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ボルフィリン症	5	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	2
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科) 令和元年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟・結核病棟;7対1、精神病棟;10対1)	・後発医薬品使用体制加算1
・臨床研修病院入院診療加算	・病棟薬剤業務実施加算1、2
・救急医療管理加算	・データ提出加算
・超急性期脳卒中加算	・提出データ評価加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・入退院支援加算1
・診療録管理体制加算2	・精神疾患診療体制加算
・医師事務作業補助体制加算1	・精神科急性期医師配置加算
・急性期看護補助体制加算25対1(5割以上)	・救命救急入院料3、4
・看護職員夜間配置加算12対1配置加算1	・特定集中治療室管理料1、3
・療養環境加算	・総合周産期特定集中治療室管理料1、2
・重症者等療養環境特別加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1、2	・一類感染症患者入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・入院時食事療養費(I)
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算(基幹型)	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科) 令和元年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行期加算)	・持続血糖測定器加算
・高度難聴指導管理料	・造血器腫瘍遺伝子検査
・糖尿病合併症管理料	・遺伝学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料イ、ロ、ハ	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来緩和ケア管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・検体検査管理加算(IV)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・植込型心電図検査
・慢性維持透析患者外来医学管理料の注3に掲げる腎代替療法実施加算	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・胎児心エコー法
・院内トリアージ実施料	・ヘッドアップティルト試験
・外来放射線照射診療料	・人工臓器検査
・ニコチン依存症管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん治療連携計画策定料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん治療連携管理料	・光トポグラフィー
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・神経学的検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・ロービジョン検査判断料
・医療機器安全管理料1、2	・コンタクトレンズ検査料1
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)(旧:総合医療管理料I)	・内服・点滴誘発試験
・歯科治療総合医療管理料(旧:総合医療管理料II)	・センチネルリンパ節生検(片側)
・遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)	・画像診断管理加算2
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・遠隔画像診断
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層、磁気共鳴コンピューター断層複合撮影
・在宅経肛門の自己洗腸指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科) 令和元年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・冠動脈CT撮影加算	・慢性維持透析濾過加算
・外傷全身CT加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・大腸CT加算	・人工膀胱療法
・心臓MRI撮影加算	・一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素呼吸不全に対して実施するものに限る。)
・乳房MRI撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・口腔粘膜処置
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・CAD/CAM冠
・外来化学療法加算1	・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・無菌製剤処理料	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・廃用症候群リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・運動器リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん患者リハビリテーション料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・精神科作業療法	・網膜再建術
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・人工中耳植込術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・人工内耳植込術
・医療保護入院等診療料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・硬膜外自家血注入	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・内視鏡下甲状腺部分切除
・人工腎臓	・腺腫摘出術
・導入期加算2	・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)
・透析液水質確保加算	・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科) 令和元年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・内視鏡下筋層切開術	・生体部分肝移植術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術(内視鏡によるもの)、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・同種死体肝移植術
	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・経皮的冠動脈形成術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的冠動脈ステント留置術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・同種死体腎移植術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・生体腎移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・膀胱水圧拡張術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む。)に掲げる手術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・補助人工心臓	・輸血管理料 I
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・輸血適正使用加算
・経皮的大動脈遮断術	・コーディネート体制充実加算
・ダメージコントロール手術	・自己生体組織接着剤作成術

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科) 令和元年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・口腔粘膜血管腫凝固術	・
・レーザー機器加算の施設基準	・
・歯根端切除手術の注3	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算(高エネルギー放射線治療)	・
・1回線量増加加算(強度変調放射線治療(IMRT)前立腺照射)	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・
・デジタル病理画像による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	6回
剖検の状況	剖検症例数 20 例 / 剖検率 5.3 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
1 Wnt/ $\beta$ -cateninシグナルを標的としたトリプルネガティブ乳癌の化学予防	大竹徹	乳腺外科学講座	4,680,000	補委	文部科研基盤研究(C)
2 ミスマッチ修復欠損・BRAF変異型大腸癌におけるフォース転移酵素発現以上の意義	野田 勝	乳腺外科学講座	4,810,000	補委	文部科研基盤研究(C)
3 Precision Medicine 時代を切り拓く11C標識メチオニンの脳腫瘍診断に関する研究—薬剤自動合成装置の医療機器	織内 昇、他	核医学科	5,200,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
4 がん幹細胞及びがん細胞を標的とする $\alpha$ 線放出核種を用いた肺がんの新規治療法開発	織内 昇、他	核医学科	6,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
5 アルファ線放出核種内用療法による難治がん治療薬の開発	鷲山幸伸、織内昇、他	先端臨床研究センター	100,100,00	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
6 PETによる脳脊髄マイクログリアイメージングによって慢性痛を可視化する研究	小幡英章、織内昇、他	麻酔・疼痛緩和科	200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
7 急性放射線障害に対するヒト胎盤系間葉細胞治療の非臨床有効性検証研究	稲野彰洋、織内昇、他	医療研究推進センター	0	補委	独立行政法人日本学術振興会
8 免疫チェックポイント阻害薬の新規バイオマーカーの抽出とその臨床応用	鈴木弘行	呼吸器外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
9 網羅的遺伝子発現解析技術を用いたKRAS変異肺癌における新規バイオマーカーの探索	山浦 匠	呼吸器外科学講座	780,000	補委	日本学術振興会
10 免疫チェックポイント阻害薬の効果予測因子としての腸内フローラの研究	尾崎(大和田)有紀	呼吸器外科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
11 センシングデバイスによる画期的な肺野微小病変同定法の新規開発	長谷川剛生	呼吸器外科学講座	3,120,000	補委	日本学術振興会
12 コンピューターアシストを利用した、肺癌リンパ節転移の新たな画像評価法の開発	星野実加	呼吸器外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
13 MonoTrapを用いた生体揮発性有機物(VOC)による肺癌診断の試み	井上卓哉	呼吸器外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
14 非小細胞肺癌の根治に向けた術後補助化学療法後の新規ペプチドワクチン維持療法の開発研究	鈴木弘行	呼吸器外科学講座	2,500,000	補委	日本医療研究開発機構
15 神経皮膚症候群に関する診療科横断的な診療体制の確立	齋藤 清	脳神経外科	800,000	補委	厚生労働省
16 術中情報を統合した4Dマルチレイヤーナビゲーション・手術支援プラットフォームの開発	藤井 正純	脳神経外科	1,000,000	補委	日本学術振興会
17 神経線維腫症2型はなぜ難病？孤発例神経鞘腫との比較による分子機序解明と治療法開発	齋藤 清	脳神経外科	853,969	補委	日本学術振興会
18 福島県の脳卒中医療における地域格差と予後に関する研究	佐久間 潤	脳神経外科	1,000,000	補委	日本学術振興会
19 超高速定量画像MRFを用いた非侵襲的脳腫瘍診断システムの開発	佐藤 拓	脳神経外科	600,000	補委	日本学術振興会



20	左室収縮の保持された心不全に対する呼吸補助療法の有用性	義久精臣	循環器内科	2,300,000	補委	日本学術振興会
21	動脈硬化と動脈瘤の形成と進展におけるSMP30の役割	鈴木 聡	循環器内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
22	脳心連関に着目した慢性心不全治療戦略の構築-交感神経とPDE3への治療介入-	及川雅啓	循環器内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
23	放射線治療にともなう心血管疾患の分子病態の解明と予知-DNA損傷の視点から	石田隆史	循環器内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
24	バイオマーカーと形態診断モダリティによる肺高血圧症の診断と治療効果判定法の確立	中里和彦	循環器内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
25	心不全患者における新しい体液量評価法を用いた診療体制の確立	佐藤崇匡	循環器内科	2,000,000	補委	日本学術振興会
26	心不全におけるセルフリー-DNAのメチル化の検討	三阪智史	循環器内科	1,700,000	補委	日本学術振興会
27	腹部大動脈瘤形成におけるSMP30の役割	渡邊俊介	循環器内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
28	肺高血圧症と脂質代謝異常の接点-治療標的・バイオマーカーとしてのMT1-MMP	杉本浩一	循環器内科	2,500,000	補委	日本学術振興会
29	交感神経リモデリング現象への介入による心不全治療戦略の構築-脳心連関の視点から-	野寺 穰	循環器内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
30	心筋梗塞後リモデリングにおけるDNA損傷応答-炎症関連の探索	石田隆史	循環器内科	100,000	補委	日本学術振興会
31	拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究	竹石恭知	循環器内科	200,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
32	特発性心筋症に関する調査研究	竹石恭知	循環器内科	350,000	補委	厚生労働省
33	PET/MRIを用いた左室駆出率の保たれた心不全の新しい診断・治療戦略	竹石恭知	循環器内科	311,000	補委	公立天子 法人福島 県立医科 大学
34	心房細動に対する心筋焼灼術後遠隔期における抗凝固療法中止基準の確立	鈴木 均	循環器内科	311,000	補委	公立天子 法人福島 県立医科 大学
35	FFR-CTおよびアンモニアPETを用いた慢性期冠動脈疾患に対する虚血診断	八巻尚洋	循環器内科	311,000	補委	公立天子 法人福島 県立医科 大学
36	心房細動における心房内単極電位マッピングによる不整脈基質の評価法の確立	金城貴士	循環器内科	311,000	補委	公立天子 法人福島 県立医科 大学
37	心房細動治療におけるクライオバルーンによる自律神経修飾とその長期治療効果	上岡正志	循環器内科	311,000	補委	公立天子 法人福島 県立医科 大学
38	iPS細胞由来心筋細胞を用いたCIC-270ライドチャンネルの機能分析	秋田 発	循環器内科	311,000	補委	公立天子 法人福島 県立医科 大学
39	心臓カテーテル検査による放射線被ばくの生物学的影響	神雄一朗	循環器内科	311,000	補委	公立天子 法人福島 県立医科 大学
40	<sup>18</sup> F-sodium fluoride PET/MRIによる不安定プラークの検出	喜古崇豊	循環器内科	311,000	補委	公立天子 法人福島 県立医科 大学

41	トラスツズマブ心筋症の発症メカニズムにおける老化とミトコンドリア機能障害の役割	三浦俊輔	循環器内科	311,000	補委	公立大学 法人福島 県立医科 大学
42	麻酔薬による、糖質コルチコイド誘導免疫細胞アポトーシスの増強作用機序の解析	黒澤 伸	麻酔・疼痛緩和科	400,000	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金
43	酸素ナノバブルの経気管投与における抗炎症作用に関する検討	吉田 圭佑	麻酔・疼痛緩和科	500,000	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金
44	内因性鎮痛の減弱と脳・脊髄ミクログリアの活性化は遷延性術後痛の指標となるか？	中野 裕子	麻酔・疼痛緩和科	2,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金
45	術後せん妄と神経伝達物質受容体に関する研究	村川雅洋	麻酔・疼痛緩和科	311,000	補委	公立大学 法人福島 県立医科
46	新しい薬物動態モデルを用いたレミフェンタニルTCIの薬物動態学的外部評価	花山千恵	麻酔・疼痛緩和科	311,000	補委	公立大学 法人福島 県立医科
47	術後敗血症性せん妄におけるカンナビノイド関連薬の影響	箱崎貴大	集中治療部	311,000	補委	公立大学 法人福島 県立医科
48	静脈注射用アセトアミノフェンの日本人手術患者の薬物動態・薬力学解析	小原 伸樹	手術部	100,000	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金
49	糖尿病合併冠動脈疾患レジストリを基盤としたコルヒチン第3相検証的試験の実施とRCT On Registryに向けたレジストリデータの品質管理と標準化に関する研究	島袋充生	糖尿病内分泌代謝 内科学講座	1,538,462	補委	AMED (琉球大学主 幹)
50	心臓脂肪、異所性脂肪、サルコペニアの病的意の解明と新しい診療コンセプトの構築	島袋充生	糖尿病内分泌代謝 内科学講座	1,000,000	補委	文科科研費
51	食行動と糖尿病：脳腸相関機序の解析	工藤明宏	糖尿病内分泌代謝 内科学講座	1,100,000	補委	文科科研費
52	空腹時低血糖カテゴリーにおける新規糖尿病発症のメカニズム	尾形絵美	糖尿病内分泌代謝 内科学講座	600,000	補委	文科科研費
53	HPV関連咽頭癌の高転移性をHPV E5シグナル伝達から解明する	室野重之	耳鼻咽喉科・頭頸 部外科	800,000	補委	日本学術 振興会
54	足場材料、成長因子及びiPS細胞を利用した術後声帯癆痕に関する再生医学研究	今泉光雅	耳鼻咽喉科・頭頸 部外科	1,300,000	補委	日本学術 振興会
55	扁桃組織におけるmultifocalなヒトパピローマウイルス感染に関する研究	鈴木俊彦	耳鼻咽喉科・頭頸 部外科	1,100,000	補委	日本学術 振興会
56	強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究	尹浩信、山本俊幸、他	皮膚科	150,000	補委	熊本大学
57	全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	尹浩信、山本俊幸、他	皮膚科	100,000	補委	熊本大学
58	StageIV 乳癌に対する予後の改善を目指した標準治療の確立に関する研究	研究代表者： 枝園忠彦 研究分担者： 佐治重衡	国立大学法人岡山大学 腫瘍内科学講座	650,000	補委	早稲田がん医療実 用化研究 事業
59	高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とベルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル	研究分担者： 田村研治 研究分担者： 佐治重衡	国立がん研究センター 腫瘍内科学講座	455,000	補委	早稲田がん医療実 用化研究 事業
60	3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究	研究代表者： 田村研治 研究分担者： 佐治重衡	国立がん研究センター 腫瘍内科学講座	300,000	補委	厚生労働 科学研究 費補助金
61	PNHの真の病態とは何か？：PNHにおける網羅的遺伝子解析とiPS細胞バンク創設	研究代表者： 野地香美 研究分担者： 七島 勲	腫瘍内科学講座 血液内科学講座	1,430,000	補委	科学研 究費助成事 業／基盤 研究

62	CT検査による医療被ばくの染色体への影響解析と生物学的線量評価	研究代表者： 坂井 昱 研究分担者： 野地 委美	放射線生命科学講座 腫瘍内科学講座	1,560,000	補委	科学研究費助成事業／基盤研究(C)
63	低酸素下乳がんにおけるERBB制御と放射線応答	佐治重衡 谷本圭司	腫瘍内科学講座 広島大学	300,000	補委	がん研究グループプロジェクト研究費
64	慢性腎臓病患者対象、ルビプロストンの腎機能低下抑制効果を検討する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、他施設共同、探索的治験	風間順一郎	腎臓高血圧内科学講座	0	補委	東北大学 AMED
65	難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	大平 弘正	消化器内科	280,000	補委	厚生労働省科学研究費
66	自己免疫性肝疾患におけるNETs・EETsの病態への関与	大平 弘正	消化器内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
67	エクオールは非アルコール性脂肪性肝疾患の発症・治療の鍵となるのか?	高橋 敦史	消化器内科	1,800,000	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
68	肝線維化における自然免疫を介した肝再生への誘導	阿部 和道	消化器内科	512,621	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
69	非アルコール性脂肪肝疾患の病態におけるレクチン経路、第二経路の影響の解明	林 学	消化器内科	500,000	補委	文部科学省科学研究費若手研究
70	初回再発ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対するトポテカン+イフォスファミド(TI)療法の第II相試験	佐野 秀樹	小児腫瘍内科	450,000	補委	公益財団法人 がんの子どもを守る会
71	移植片におけるドナーT細胞の分化・成熟段階の違いが同種造血細胞移植後の免疫反応を中心とした主要アウトカムに与える影響	望月 一弘	小児腫瘍内科	300,000	補委	一般社団法人日本血液学会
72	小児がんレジストリーを用いた転移性肝芽腫に対する薬剤開発戦略としての国際共同臨床試験	菊田 敦	小児腫瘍内科	1,599,999	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
73	小児およびAYA世代の横紋筋肉腫およびユーイング肉腫患者に対するリスク層別化臨床試験実施による標準的治療法の開発	佐野 秀樹	小児腫瘍内科	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
74	進行がんに対する免疫放射線治療開発のためのトランスレーショナル研究	吉本由哉	放射線治療科	0	補委	新学術領域研究 <small>「学術研究支援基盤創成」推進プログラム支援</small>
75	放射線治療が行われた扁平上皮癌患者における腫瘍免疫学的解析と治療効果との相関	田巻倫明	放射線治療科	1,300,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業
76	大腸癌における抗癌剤耐性に関与する薬剤トランスポーターの役割の解明	門馬 智之	消化管外科学講座	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
77	IL-6/STAT3シグナルの介するCDX2の胃癌発生への関与の解明	齋藤 元伸	消化管外科学講座	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
78	新規癌治療ターゲットとしてのペーアレスチン経路の可能性	坂本 涉	消化管外科学講座	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
79	再発胃癌患者に対する放射線治療と抗PD-1抗体併用療法の腫瘍免疫学的解析	鈴木 義行	放射線腫瘍学講座	不明	補委	独立行政法人日本学術振興会
80	放射線治療が行われた扁平上皮癌患者における腫瘍免疫学的解析と治療効果との相関	田巻 倫明	放射線腫瘍学講座	不明	補委	独立行政法人日本学術振興会
81	血液・組織検体のEMTモニタリングによるStage II・III食道癌個別化医療の試み	藤田 正太郎	消化管外科学講座	2,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
82	ミスマッチ修復欠損・BRAF変異型大腸癌におけるフコース転移酵素発現異常の意義	野田 勝	乳腺外科学講座	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会



83	がん患者エフェクター細胞を用いた脱フコシル化抗体のADCC活性解析	中島 隆宏	消化管外科学講座	2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
84	Wnt/ $\beta$ /cateninシグナルを標的としたトリプルネガティブ乳癌の化学予防	大竹 徹	乳腺外科学講座	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
85	乳癌におけるT細胞を用いた免疫細胞療法の開発	三村 耕作	輸血・移植免疫学講座	不明	補委	独立行政法人日本学術振興会
86	直腸癌の術前治療感受性を予測する遺伝子およびマイクロRNAバイオマーカーの開発	大木 進司	消化管外科学講座	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
87	甲状腺癌幹細胞を標的とした新たな治療法の開発	早瀬 傑	消化管外科学講座	300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
88	大腸癌間質における癌関連線維芽細胞由来VCANIによる転移・浸潤促進機構の解明	岡山 洋和	消化管外科学講座	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
89	肺腺がん術後再発と化学療法応答性に関わる因子の解明	齋藤 元伸	消化管外科学講座	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
90	マルチオミクス解析を用いた大腸がんのprecision immunotherapy	岡山 洋和	消化管外科学講座	1,000,000	補委	公益財団法人かなえ医薬振興財団
91	ステージ2-3大腸がんに対する予後バイオマーカーの確立	岡山 洋和	消化管外科学講座	2,004,545	補委	日本医療研究開発機構
92	マイクロRNAを用いた大腸癌免疫療法の個別化戦略	岡山 洋和	消化管外科学講座	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構
93	大腸癌の糖鎖プロファイルに基づく新規molecular subtypeの同定	岡山 洋和	消化管外科学講座	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構
94	病理診断支援のための人工知能(病理診断支援AI)開発と統合的「AI医療画像知」の創出 地域ネットワーク	橋本 優子	病理病態診断学・病理診断科	4,550,000	補委	JP-AIDプロジェクト(日本病理学会-AMED)
95	ブレインリソースの活用支援	矢部博興	神経精神医学講座	1,674,000	補委	文部科学省
96	統合失調症早期発見のためのMMNの時間統合研究と原発事故影響の生理学的検証	矢部博興	神経精神医学講座	1,892,906	補委	文部科学省
97	統合失調症へのオキシトシン点鼻薬による自動的聴覚識別機能への効果	志賀哲也	神経精神医学講座	2,087,177	補委	文部科学省
98	オキシトシンが統合失調症の臨床症状・社会行動障害に与える影響についての検討	三浦 至	神経精神医学講座	849,160	補委	文部科学省
99	簡易客観的精神機能検査による「うつ病エピソード」の型分類は治療計画立案に有用か?	丹羽真一	神経精神医学講座	1,206,175	補委	文部科学省
100	プロジェクトリターン2017:原発事故後に避難した精神科入院患者の帰還支援の試み	後藤大介	神経精神医学講座	2,708,570	補委	文部科学省
101	心因性疼痛の治療と認知機能障害の関連	松本純弥	神経精神医学講座	1,200,000	補委	文部科学省
102	福島地区の精神疾患拠点の構築	矢部博興	神経精神医学講座	1,961,539	補委	AMED
103	死後脳リソースを活用した統合失調症における代謝・ダイナミクス制御関連分子の解析	國井泰人	神経精神医学講座	4,207,500	補委	AMED

104	SSTの発展を通じた統合失調症リカバリー支援、被災当事者支援	丹羽真一	神経精神医学講座	600,000	補委	AMED
105	自己炎症バイオマーカーによるリウマチ性疾患の新たな分類と治療法の確立	右田 清志	リウマチ膠原病内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
106	全エクソンシーケンスに基づく成人スチル病の「病態制御システム」の同定	右田 清志	リウマチ膠原病内科	100,000	補委	日本学術振興会
107	家族性地中海熱(FMF)インフラマソームシグナル伝達異常をゲノム創薬で解決する開発研究	右田 清志	リウマチ膠原病内科	1,492,308	補委	日本医療研究開発機構
108	シーズ探索研究から発展する家族性地中海熱(FMF)に対するトシズマブの医師主導治験	右田 清志	リウマチ膠原病内科	1,685,000	補委	日本医療研究開発機構
109	自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、重症度分類、診療ガイドライン確立に関する研究	右田 清志	リウマチ膠原病内科	500,000	補委	厚生労働省
110	トルコと日本の自己炎症疾患発症責任分子複合体を活性化する生体・環境因子の比較調査	右田 清志	リウマチ膠原病内科	200,000	補委	日本学術振興会
111	呼吸硫化水素を用いた慢性閉塞性肺疾患(COPD)増悪予測の検討	斎藤 純平	呼吸器内科学講座	1,252,768	補委	日本学術振興会科学研究助成事業
112	眼内補体因子および関連蛋白計測による加齢黄斑変性発症機構の解明	石龍 鉄樹	眼科	1,200,000	補委	日本学術振興会科学研究助成事業
113	前立腺肥大症発生過程における補体活性化機構及びインフラマソーム調節機構の解明	羽賀宣博	泌尿器科	1,000,000	補委	旭化成



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Noda M, Okayama H, Tachibana K et al.	Department of Breast Surgery	Glycosyltransferase Gene Expression Identifies a Poor Prognostic Colorectal Cancer Subtype Associated with Mismatch Repair Deficiency and Incomplete Glycan Synthesis.	Clinical Cancer Reserch 2018 Sep 15;24(18):4468- 4481	Orginal Article
2	Noda M, Okayama H et al.	Department of Breast Surgery	Prognostic role of FUT8 expression in relation to p53 status in stage II and III colorectal cancer.	PLos One 2018 Jul 5;13(7)	Orginal Article
3	Kiko T, Masuda A, Nemoto A, et al.	循環器内科	Cardiac sarcoidosis after glucocorticoid therapy evaluated by 18F-fluorodeoxyglucose PET/MRI.	J Nucl Cardiol. 2018 Apr;25(2):685- 687.	Orginal Article
4	Masuda A, Nemoto A, Yamaki T, et al.	循環器内科	Assessment of myocardial viability of a patient with old myocardial infarction by 18F- fluorodeoxyglucose PET/MRI.	J Nucl Cardiol. 2018 Aug;25(4):1423- 1426.	Orginal Article
5	Inoue T, Kanno R, Moriya A, et al.	呼吸器外科	A Case of Paraneoplastic Limbic Encephalitis in a Patient with Invasive Thymoma with Anti-Glutamate Receptor Antibody-Positive Cerebrospinal Fluid: A Case Report.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2018 Aug; 24(4):200-204	Case Report
6	Owada-Ozaki Y, Matsumura Y, Suzuki H.	呼吸器外科	VV-ECMO during subsequent segmentectomy after right pneumonectomy.	J Surg Case Rep. 2018 Aug; 2018(8):rjy213.	Case Report
7	Owada-Ozaki Y, Muto S, Takagi H, et al.	呼吸器外科	Prognostic Impact of Tumor Mutation Burden in Patients With Completely Resected Non-Small Cell Lung Cancer: Brief Report.	J Thorac Oncol. 2018 Aug; 13(8):1217-1221	Others
8	Yamaura T, Suzuki H.	呼吸器外科	Pseudoprogression and Rapid Response to Pembrolizumab in a Patient with Advanced Lung Adenocarcinoma with Loss of Epidermal Growth Factor Receptor Gene Mutation after Tyrosine Kinase Inhibitor Therapy.	J Thorac Oncol. 2018 Oct; 13(10):e209-e210	Letters
9	Matsumura Y, Owada-Ozaki Y, Suzuki H.	呼吸器外科	Significance of testing for TP53 gene mutations in lung adenocarcinoma using targeted gene sequencing.	J Thorac Dis. 2018 Nov; 10(Suppl 33):S4147-S4150	Others
10	Saito M, Shiraishi K, Goto A, et al.	呼吸器外科(兼務)	Development of targeted therapy and immunotherapy for treatment of small cell lung cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2018 Jul ;48(7):603-608.	Review
11	Sugihiro Hamaguchi, Motoi Suzuki, Masahiko Abe et al.	福島県立医科大学総合内科	Six underlying health conditions strongly influence mortality based on pneumonia severity in an ageing population of Japan	BMC Pulmonary Medicine (2018) 18:88 23 May 2018	Orginal Article
12	Murakami Y, Matsumoto Y, Hoshi K, et al.	脳神経外科	Rapid increase of 'brain-type' transferrin in cerebrospinal fluid after shunt surgery for idiopathic normal pressure hydrocephalus: a prognosis marker for cognitive	J Biochem 164: 205-213, 2018	Orginal Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
13	Murakami Y, Takahashi K, Hoshi K, et al.	脳神経外科	Spontaneous intracranial hypotension is diagnosed by a combination of lipocalin-type prostaglandin D synthase and brain-type transferrin in	BBA-General Subjects 1862: 1835-1842, 2018	Original Article
14	Sato T, Bakhit M, Suzuki K, et al.	脳神経外科	A novel intraoperative laser light imaging system to simultaneously visualize visible light and near-infrared fluorescence for indocyanine green	Cerebrovasc Dis Extra 8: 96-100, 2018	Original Article
15	Ito Y, Suzuki K, Ichikawa T, et al.	脳神経外科	Intraoperative fluorescence cerebral angiography by laser surgical microscopy: comparison with xenon microscopy and simultaneous observation of	Oper neurosurg doi: 10.1093/ons/opy159, 2018	Original Article
16	Takatoyo Kiko, Atsuro Masuda, Ayaka	循環器内科	Cardiac sarcoidosis after glucocorticoid therapy evaluated by <sup>18</sup> F-fluorodeoxyglucose PET/MRI	Journal of Nuclear Cardiology. 201804; 25: 685-687	Original Article
17	Akiomi Yoshihisa, Yu Sato, Tetsuro Yokokawa, et	循環器内科	Liver fibrosis score predicts mortality in heart failure patients with preserved ejection fraction	ESC Heart Failure. 201804; 5: 262-270	Original Article
18	Akiomi Yoshihisa, Satoshi Suzuki, Yasuchika	循環器内科	VEGF165b elevation in pulmonary arterial hypertension patients, causative or adaptive? -Reply	International Journal of Cardiology. 201804; 256: 32	Original Article
19	Masashi Kamioka, Naoko Hijioka, Yoshiyuki Matsumoto, et	循環器内科	Uncontrolled blood pressure affects atrial remodeling and adverse clinical outcome in paroxysmal atrial fibrillation	Pacing and Clinical Electrophysiology. 201804; 41: 402-410	Original Article
20	Akiomi Yoshihisa, Yusuke Kimishima, Takatoyo	循環器内科	Liver fibrosis marker, 7S domain of collagen type IV, in patients with pre-capillary pulmonary hypertension	International Journal of Cardiology. 201805; 258: 269-274	Original Article
21	Minoru Nodera, Hitoshi Suzuki, Yoshiyuki	循環器内科	Association between serum uric acid level and ventricular tachyarrhythmia in heart failure patients with implantable cardioverter-defibrillator	Cardiology. 201805; 140: 47-51	Original Article
22	Akiomi Yoshihisa, Yusuke Kimishima, Takatoyo	循環器内科	Usefulness of urinary N-terminal fragment of titin to predict mortality in dilated cardiomyopathy	American Journal of Cardiology. 201805; 121: 1260-1265	Original Article
23	Akiomi Yoshihisa, Satoshi Abe, Yu Sato, et al.	循環器内科	Plasma volume status predicts prognosis in patients with acute heart failure syndromes	European Heart Journal: Acute Cardiovascular Care. 201806; 7: 330-338	Original Article
24	Satoshi Suzuki, Akiomi Yoshihisa, Yu Sato, et al.	循環器内科	Association between sleep-disordered breathing and arterial stiffness in heart failure patients with reduced or preserved ejection fraction	ESC Heart Failure. 201806; 5: 284-291	Original Article
25	Akiomi Yoshihisa, Satoshi Suzuki, Yu Sato, et al.	循環器内科	Relation of testosterone levels to mortality in men with heart failure	American Journal of Cardiology. 201806; 121: 1321-1327	Original Article
26	Akiomi Yoshihisa, Satoshi Abe, Takatoyo Kiko, et al.	循環器内科	Association of serum zinc level with prognosis in patients with heart failure	Journal of Cardiac Failure. 201806; 24: 375-383	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
27	Takashi Kaneshiro, Yoshiyuki Matsumoto, Minoru	循環器内科	Anatomical predisposing factors of transmural thermal injury after pulmonary vein isolation	Europace. 201807; 20: 1122-1128	Original Article
28	Akiomi Yoshihisa, Takatoyo Kiko, Takamasa	循環器内科	Urinary N-terminal fragment of titin is a marker to diagnose muscular dystrophy in patients with cardiomyopathy	Clinica Chimica Acta. 201809; 484: 226-230	Original Article
29	Takatoyo Kiko, Akiomi Yoshihisa, Yuki Kanno, et	循環器内科	A multiple biomarker approach in patients with cardiac sarcoidosis	International Heart Journal. 201809; 59: 996-1001	Original Article
30	Satoshi Suzuki, Akiomi Yoshihisa, Yu Sato, et al.	循環器内科	Clinical significance of get with the guidelines-heart failure risk score in patients with chronic heart failure after hospitalization	Journal of the American Heart Association. 201809; 7: e008316 (オンライン)	Original Article
31	Minoru Nodera, Masayoshi Oikawa, Kazuhiko	循環器内科	Sympathetic nervous remodeling is induced in the intermediolateral nucleus after myocardial infarction -Role of BDNF-TrkB axis-	Neuroscience Letters. 201810; 685: 114-123	Original Article
32	Takashi Kaneshiro, Yoshiyuki Matsumoto, Naoko Hijoka,	循環器内科	Distinct forms of esophageal lesions after radiofrequency and cryoballoon pulmonary vein isolation	JACC: Clinical Electrophysiology. 201812; 4: 1642-3	Original Article
33	Akiomi Yoshihisa	循環器内科	Altered gut flora and gut microbiome-derived metabolites in heart failure patients in the compensated and decompensated phases	Circulation Journal. 201901; 83: 30-31	Original Article
34	Keisuke Yoshida, Tsuyoshi Isosu, Yoshie Noji et al.	麻酔・疼痛緩和科	Usefulness of oxygen reserve index(ORiTM), a new parameter of oxygenation reserve potential, for rapid sequence induction of general anesthesia.	J Clin Monit Comput 2018.8; 32(4): 687-691	Original Article
35	Hideaki Ebana, Shinju Obara, Masahiro Murakawa	麻酔・疼痛緩和科	Mallory-Weiss syndrome diagnosed after tracheal extubation.	J Anesth 2018.4;32(2): 305	Case Report
36	Isosu T, Yoshida K, Oishi R et al.	集中治療部	Effects of indigo carmine intravenous injection on oxygen reserve index (ORiTM) measurement.	J Clin Monit Comput 2018.8; 32(4): 693-697	Original Article
37	Shinju Obara	手術部	Dexmedetomidine as an adjuvant during general anesthesia.	Journal of Anesthesia. 2018 June	Others
38	Obara S, Kakinouchi K, Honda J et al.	手術部	Dexmedetomidine administration in a patient with status epilepticus under color density spectral array monitoring	JA Clinical Reports 2019.2; 5:12	Case Report
39	Maimaituxun G, Shimabukuro Michio, Fukuda D, et	糖尿病内分泌代謝内科学 講座	Local Thickness of Epicardial Adipose Tissue Surrounding the Left Anterior Descending Artery Is a Simple Predictor of Coronary Artery Disease- New Prediction Model in Combination With Framingham Risk Score.	Circulation Journal, 82(5), 1369-1378, 2018 Apr.	Original Article
40	Kudoh Akihiro, Satoh H, Hirai H, et al.	糖尿病内分泌代謝内科学 講座	Preliminary Evidence for Adipocytokine Signals in Skeletal Muscle Glucose Uptake.	Frontiers in Endocrinology, 9, 295, 2018 Jun.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Ogata Emi, Asahi K, Yamaguchi S, et al.	糖尿病内分泌代謝内科学 講座	Low fasting plasma glucose level as a predictor of new-onset diabetes mellitus on a large cohort from a Japanese general population.	Scientific reports, 8(1), 13927, 2018 Sep.	Original Article
42	Hirai Hiroyuki, Asahi K, Yamaguchi S,et al.	糖尿病内分泌代謝内科学 講座	New risk prediction model of coronary heart disease in participants with and without diabetes: Assessments of the Framingham risk and Suita scores in 3-year longitudinal database in a Japanese population.	Scientific Reports, 9(1), 2813, 2019 Feb.	Original Article
43	Hirai H, Kuwana K, Kusano Y.	糖尿病内分泌代謝内科学 講座	Late onset adrenal insufficiency after adrenalectomy due to latent nonclassical 21-hydroxylase deficiency: A case report.	Medicine 2018 Aug;97(33):e1188 8.	Case Report
44	Suzuki M, Nakaegawa Y, Kobayashi T, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The role of frozen section biopsy for parotid gland tumour with benign fine-needle aspiration cytology.	J Laryngol Otol.・ 2019年3月, 133(3):227-229	Original Article
45	Murono S, Yoshida H, Kobayashi T, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Multifocal human papillomavirus detection in palatine and pharyngeal tonsils.	Acta Otolaryngol.・ 2018年5月, 138(5):483-486	Original Article
46	Hideaki Tanaka	小児外科	Prenatally diagnosed large mediastinal lymphangioma: A case report	Clin Case Rep Vol.6(9) 1880- 1884, 2018	Case Report
47	Keiichi Kakuta	小児外科	Retroperitoneal venous malformation	Journal of Pediatric Surgery Case Reports 32 55-57, 2018.	Case Report
48	Nakamura K, Saito K, Kashiwazaki J, et al.	感染制御部	Evaluation of ozonated water using ASTM E1174 for standardized testing of handwash formulations for healthcare personnel	J Hosp Infect. 2018 Oct;100(2):211- 213.	Original Article
49	Matsumura N, Yamamoto T.	皮膚科	Lipomembranous changes (membrano-cystic lesions) in the extremities of a patient with systemic sclerosis.	Our Dermatol Online 9; 105- 106, 2018.	Original Article
50	Hiraiwa T, Hanami Y, Yamamoto T.	皮膚科	Six cases of Henoch-Schönlein purpura-like eruption induced by epidermal growth factor receptor inhibitor.	Our Dermatol Online 9; 89-90, 2018.	Original Article
51	Sato K, Miura T, Ohtsuka M, Yamamoto T.	皮膚科	Bullous Sweet's syndrome with muscle involvement.	Actas Dermosifiliogr 109; 284-285, 2018.	Original Article
52	Igari S, Yamamoto T.	皮膚科	Dramatic effect of hydroxychloroquine on lupus alopecia.	J Dermatol 45; 194-197, 2018.	Original Article
53	Ohashi T, Miura T, Yamamoto T.	皮膚科	Auricular pyoderma gangrenosum with penetration in a patient with rheumatoid arthritis.	Int J Rheum Dis 21; 563-565, 2018.	Original Article
54	Yamamoto T.	皮膚科	Anti-programmed cell death-1- induced plaque and guttate psoriasis.	Indian J Dermatol 63; 88-89, 2018.	Original Article



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
55	Yamamoto T, Kawada A.	皮膚科	Clinical characteristics of Japanese patients with psoriatic arthritis: comparison with East Asian countries.	J Dermatol 45; 273-278, 2018.	Original Article
56	Arase N, Jin H, Tanimura K, et al.	皮膚科	Novel autoantibody against the $\beta$ 2-glycoprotein 1/HLA-DR complex in patients with refractory cutaneous ulcers.	Br J Dermatol 178; 272-275, 2018.	Original Article
57	Yamamoto T, Mori T.	皮膚科	Epidermal mast cells in the nail matrix of a patient with psoriasis confined to the nails.	Clin Exp Dermatol 43; 460-461, 2018.	Original Article
58	Hiraiwa T, Yamamoto T.	皮膚科	Alopecia areata and palmoplantar pustulosis: report of 4 cases.	Actas Dermosifiliogr 109; 751-752, 2018.	Original Article
59	Hiraiwa T, Ishikawa M, Ohashi T, et al	皮膚科	Koebner phenomenon in Sweet's syndrome.	Actas Dermosifiliogr 109; 555-556, 2018.	Original Article
60	Jinnin M, Yamamoto T, Asano Y, et al.	皮膚科	Guideline for diagnostic criteria, severity classification and treatment of eosinophilic fasciitis.	J Dermatol 45; 881-890, 2018.	Original Article
61	Hasegawa M, Ishikawa O, Asano Y, et al.	皮膚科	Diagnostic criteria, severity classification and guideline of lichen sclerosus et atrophicus.	J Dermatol 45; 891-897	Original Article
62	Okiyama N, Asano Y, Hamaguchi Y, et al.	皮膚科	Impact of a new simplified disability scoring system for adult patients with localized scleroderma.	J Dermatol 45; 431-435, 2018.	Original Article
63	Asano Y, Fujimoto M, Ishikawa O, et al.	皮膚科	Diagnostic criteria, severity classification and guidelines of localized scleroderma.	J Dermatol 45; 755-780, 2018.	Original Article
64	Yamamoto T, Ohtsuki M, Sano S, et al.	皮膚科	Juvenile-onset psoriatic arthritis: a survey by the Japanese Society for Psoriasis Research.	Eur J Dermatol 28; 419-421, 2018.	Original Article
65	Mori T, Yamamoto T.	皮膚科	Secondary calcification associated with subcutaneous sarcoidosis	J Dermatol 45; e282-e283, 2018.	Original Article
66	Kikuchi N, Miura T, Yamamoto T.	皮膚科	Behçet's disease diagnosed by pregnancy-exacerbated genital ulcers.	Our Dermatol Online 9; 97-98, 2018.	Original Article
67	Kikuchi N, Yamamoto T.	皮膚科	Clinical analysis of pyoderma gangrenosum: 41 Japanese cases over 15 years.	Eur J Dermatol 28; 230-232, 2018.	Original Article
68	Miura T, Ishikawa M, Mori T, Hanami Y, Ohtsuka M,	皮膚科	Huge squamous cell carcinoma arising on severe hidradenitis suppurativa	Actas Dermosifiliogra 109; 828, 2018.	Original Article



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
69	Yamagami J, Nakamura Y, Nagao K, et al.	皮膚科	Vancomycin mediates IgA autoreactivity in drug-induced linear IgA bullous dermatosis.	J Invest Dermatol 138; 1473-1480, 2018.	Original Article
70	Satoh M, Yamamoto T.	皮膚科	Acral erythema nodosum in a patient with recurrent breast cancer.	Dermatol Sinica 36; 173-174, 2018.	Original Article
71	Ishikawa M, Ohtsuka M, Yamamoto T.	皮膚科	Three cases of scalp sarcoidosis with alopecia.	Actas Dermosifiliogr 109; 933-934, 2018.	Original Article
72	Hanami Y, Nakamura T, Yamamoto T.	皮膚科	Case of late-onset focal dermal elastosis.	J Dermatol 45; e339-e340, 2018.	Original Article
73	Miura T, Yamamoto T.	皮膚科	Drug-induced hypersensitivity syndrome in a patient with systemic lupus erythematosus and psoriasis.	Our Dermatol Online 9; 466-467, 2018.	Original Article
74	Hiraiwa T, Yamamoto T.	皮膚科	Comorbidities of Japanese patients with palmoplantar pustulosis: a report from a single center.	Int J Dermatol 57; e40-e41, 2018.	Original Article
75	Miura T, Kikuchi N, Ohtsuka M, et al.	皮膚科	Varicella in a patient with drug-induced hypersensitivity syndrome developed after autologous peripheral stem cell transplantation.	Int J Dermatol 57; e71-e73, 2018.	Original Article
76	Satoh M, Yamamoto T.	皮膚科	Recurrent pyoderma gangrenosum developed after a cesarean section with a 10-year interval.	Int J Dermatol 57; e92-e93, 2018.	Original Article
77	Ishikawa M, Ohashi T, Yamamoto T.	皮膚科	Secondary ossification association with seborrheic keratosis adjacent to basal cell carcinoma.	Indian J Dermatol 63; 357-359, 2018.	Original Article
78	Brzezinski P, Satoh M, Adaskevich UP, et al.	皮膚科	Dermatology Eponyms-sign-Lexicon (S).	Our Dermatol Online 9; 346-354, 2018.	Original Article
79	Saji S.	福島県立医科大学 医学部 腫瘍内科学講座	The long and winding road for overcoming resistance to hormone therapy in breast cancer.	<b>Breast Cancer</b> .2018 Jul	Review
80	Suga J, Izumiya K, Tanaka N, et al.	福島県立医科大学 医学部 腫瘍内科学講座	Estradiol promotes rapid degradation of HER3 in ER-positive breast cancer cell line MCF-7	<b>Biochemistry and Biophysics Reports</b> , in press, Dec 2018; 16:103-109	Original Article
81	Gonda K, Tachiya Y, Hatakeyama Y, et al.	福島県立医科大学 医学部 臨床腫瘍センター	Poland syndrome accompanied by internal iliac artery supply disruption sequence: a case report.	<b>Journal of Medical Case Reports</b> . Oct 2018;12(1):312-1823-1828	Case Report
82	Kazama JJ, Wakasugi M	腎臓・高血圧内科	Parathyroid Hormone and Bone in Dialysis Patients.	<b>Ther Apher Dial</b> 2018/6/1	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
83	Kazama S, Kazama JJ, Wakasugi M,	腎臓・高血圧内科	Rosuvastatin pretreatment suppresses distant organ injury following unilateral renal ischemia-reperfusion in hypertensive Dahl salt-sensitive rats.	Fukushima J Med Sci 2018/4/17	Original Article
84	Okai K, Ichikawa- Tomikawa N, Saito AC, et al	消化器内科	A novel occludin-targeting monoclonal antibody prevents hepatitis C virus infection in vitro.	Oncotarget.9(24):16588-16598, 2018.	Original Article
85	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, et al	消化器内科	Pancreatic stents for the prevention of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis should be inserted up to the pancreatic body or tail.	World J Gastroenterol. 24(22):2392-2399, 2018.	Original Article
86	Abe K, Takahashi A, Fujita M, et al	消化器内科	Dysbiosis of oral microbiota and its association with salivary immunological biomarkers in autoimmune liver disease.	PLoS One. 13(7):e0198757, 2018.	Original Article
87	Hayashi M, Abe K, Fujita M, et al	消化器内科	Serum levels of a cell death biomarker predict the development of cirrhosis-related conditions in primary biliary cholangitis.	Med Mol Morphol. 51(3):176-185, 2018.	Original Article
88	Asama H, Suzuki R, Takagi T, et al	消化器内科	Evaluation of inflammation-based markers for predicting the prognosis of unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma treated with chemotherapy.	Mol Clin Oncol. 9(4):408-414., 2018	Original Article
89	Nakamura J, Hikichi T, Inoue H, et al	消化器内科	Per-oral endoscopic myotomy for esophageal achalasia in a case of Allgrove syndrome.	Clin J Gastroenterol. 11(4):273-277, 2018	Original Article
90	Suzuki R, Irie H, Takagi T, et al	消化器内科	Prognostic influence of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration in IPMN-derived invasive adenocarcinoma.	BMC Cancer. 2018 Oct 12;18(1):974.	Original Article
91	Sugimoto M, Abe K, Hayashi M, et al	消化器内科	The efficacy of serum cell death biomarkers for diagnosing biliary tract cancer.	Sci Rep. 8(1):16997, 2018.	Original Article
92	Watanabe K, Hikichi T, Takagi T, et al	消化器内科	Propofol is a more effective and safer sedative agent than midazolam in endoscopic injection sclerotherapy for esophageal varices in patients with liver cirrhosis: a randomized controlled trial	Fukushima J Med Sci. 64(3):133-141, 2018.	Original Article
93	Watanabe K, Hikichi T, Nakamura J, et al	消化器内科	Successful endoscopic closure using polyglycolic acid sheets with fibrin glue for nonhealing duodenal ulcer with perforation after proton beam therapy of liver tumor.	Case Rep Gastroenterol. 12(3):679-685, 2018.	Case Report
94	Suzuki R, Takagi T, Hikichi T, et al	消化器内科	An observation study of the prognostic effect of waiting times in the management of pancreatic ductal adenocarcinoma.	Oncol Lett. 17(1):587-593, 2019.	Original Article
95	Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, et al	消化器内科	Non-specific elevation of serum Mac-2 binding protein glycosylation isomer levels in patients with biliary disease.	Mol Clin Oncol. 10(1):168-172, 2019.	Original Article
96	Takagi T, Sugimoto M, Suzuki R, et al	消化器内科	Appropriate number of biliary biopsies and endoscopic retrograde cholangiopancreatography sessions for diagnosing biliary	World J Gastrointest Endosc. 11(3):231-238, 2019.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
97	Fujita M, Okai K, Hayashi M, et al	消化器内科	Huge hepatocellular carcinoma treated with radical hepatectomy after drug-eluting bead transarterial chemoembolization.	Intern Med. 58:1103-1110, 2019.	Case Report
98	Watahiki Y, Hikichi T, Watanabe K, et al	消化器内科	A case of inflammatory fibroid polyp of the stomach with an "erect penis like appearance" successfully removed by endoscopic submucosal dissection.	Clin J Gastroenterol. 12(3):279-284, 2019.	Case Report
99	Mochizuki K, Kawana S, Yamada S, et al.	Department of Pediatric Oncology	Various checkpoint molecules, and tumor-infiltrating lymphocytes in common pediatric solid tumors: Possibilities for novel immunotherapy.	Pediatr Hematol Oncol, 2019 Feb;36(1):17-27	Original Article
100	Sano H, Mochizuki K, Kobayashi S, et al.	Department of Pediatric Oncology	T-cell-replete haploidentical stem cell transplantation using low-dose antithymocyte globulin in children with relapsed or refractory acute leukemia.	Int J Hematol, 2018 Jul;108(1):76-84.	Original Article
101	Takeda Y, Sano H, Kawano A, et al.	Department of Pediatric Oncology	Usefulness of fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for detection of a neuroblastic nodule in a	J Med Case Rep, 2018 May; 12(1):119.	Original Article
102	吉本由哉 田巻倫明	放射線治療科	Working Group for Gynecologic Cancer, Phase I Study of Carbon Ion Radiotherapy and Image-Guided Brachytherapy for Locally Advanced Cervical Cancer	Cancers(Basel) 2018.9.18	Original Article
103	鈴木義行 吉本由哉 田巻倫明	放射線治療科	Tumor-specific CD8-positive T cell-mediated antitumor immunity is implicated in the antitumor effect of local hyperthermia	Int J Hyperthermia 2018.9.17	Original Article
104	吉本由哉 田巻倫明	放射線治療科	Muta-tional analysis of uterine cervical cancer that survived multiple rounds of radiotherapy	Oncotarget 2018.8.24	Original Article
105	鈴木義行 吉本由哉	放射線治療科	High linear energy transfer carbon-ion irradiation increases the release of the immune mediator high mobility group box 1 from human cancer cells	J Radiat Res 2018.9	Original Article
106	吉本由哉	放射線治療科	Clinical Advantage of Chest-wall Post-mastectomy Radiation Therapy Without Bolus	In Vivo 2018.7-8	Original Article
107	鈴木義行 吉本由哉 田巻倫明	放射線治療科	Combination Therapy of Intravenously Injected Microglia and Radiation Therapy Prolongs Survival in a Rat Model of Spontaneous Malignant Glioma	Int J Radiat Oncol Biol Phys 2018.11.1	Original Article
108	吉本由哉	放射線治療科	Self-Delivering RNAi Target-ing PD-1 Improves Tumor-Specific T Cell Functionality for Adoptive Cell Therapy of Ma-lignant Melanoma	Mol Ther 2018.4	Original Article
109	鈴木義行 田巻倫明	放射線治療科	Dosimetric comparison of three-dimensional conformal radiotherapy versus volumetric-arc radiotherapy in cervical cancer treatment: applying the central-	J Radiat Res 2018.9	Original Article
110	鈴木義行 田巻倫明 佐藤久志	放射線治療科	Incidence of organizing pneumonia after whole-breast radiotherapy for breast cancer, and risk factor analysis.	J Radiat Res 2018.9	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
111	Aoto K, Mimura K, Okayama H,	消化管外科	Immunogenic tumor cell death induced by chemotherapy in patients with breast cancer and esophageal squamous cell carcinoma.	Oncol Rep. 2018	Original Article
112	Kanke Y, Shimomura A, Saito M,	消化管外科	Gene aberration profile of tumors of adolescent and young adult females. Oncotarget.	Oncotarget.2017	Original Article
113	Mimura K, Teh JL, Okayama H,	消化管外科	PD-L1 expression is mainly regulated by interferon gamma associated with JAK-STAT pathway in gastric cancer. Cancer Sci.	Cancer Sci.2018	Original Article
114	Nakajima T, Okayama H, Ashizawa M	消化管外科	Augmentation of antibody-dependent cellular cytotoxicity with defucosylated monoclonal antibodies in patients with GI-tract cancer.	Oncol Lett.2018	Original Article
115	Saito M, Goto A, Abe N	消化管外科	Decreased expression of CADM1 and CADM4 are associated with advanced stage breast cancer. Oncol Lett.	Oncol Lett. 2018	Original Article
116	Saito M, Saito K, Nakano H,	消化管外科	Annexin A1 is upregulated in p53-positive gastric cancer.	Ann. Cancer Res. 2018.	Original Article
117	Saito M, Saito K, Shiraishi K, Maeda D	消化管外科	Identification of candidate responders for anti-PD-L1/PD-1 immunotherapy, Rova-T therapy, or EZH2 inhibitory therapy in small-cell lung cancer.	Mol Clin Oncol.2018	Original Article
118	Shimura T, Shibata M, Gonda K,	消化管外科	Serum transthyretin level is associated with prognosis of patients with gastric cancer.	J Surg Res.2018	Original Article
119	Thar Min AK, Okayama H, Saito M,	消化管外科	Epithelial-mesenchymal transition-converted tumor cells can induce T-cell apoptosis through upregulation of programmed death ligand 1	Cancer Med. 2018	Original Article
120	Watanabe Y, Saito M, Saito K,	消化管外科	Upregulated HOXA9 expression is associated with lymph node metastasis in colorectal cancer.	Oncol Lett. 2018	Original Article
121	Kono S, Miura I, Oshima S, et al.	心身医療科	Frontal activity measured by near-infrared spectroscopy in patient atypical antipsychotic drugs:A cross-sectional study.	Psychiatry Res Neuroimaging 2018 Mar 30;273:42-45	Original Article
122	Misaka S, Abe O, Sato H, et al.	心身医療科	Lack of pharmacokinetic interaction between fluvastatin and green tea in healthy volunteers.	Eur J Clin Pharmacol 2018 May;74(5):601-609	Original Article
123	Abe O, Ono T, Sato H, et al.	心身医療科	Role of (-)-epigallocatechin gallate in the pharmacokinetic interaction between nadolol and green tea in healthy volunteers.	Eur J Clin Pharmacol 2018 Jun;74(6):775-783.	Original Article
124	Miura I, Kunii Y, Hino M, et al.	心身医療科	DNA methylation of ANKK1 and response to aripiprazole in patients with acute schizophrenia:A preliminary study.	J Psychiatr Res.2018 May;100:84-87.	Original Article



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
125	Itagaki S, Ohira T, Nagai M, et al.	心身医療科	The relationship between sleep time and mental health problems according to the strengths and difficulties questionnaire in children after an earthquake	Int J Environ Res Public Health 2018 Mar 30;15(4).pii:E633	Original Article
126	Matsumoto J, Nagaoka A, Kunii Y, et al.	心身医療科	Effects of the -141C insertion/delation polymorphism in the dopamine D2 receptor gene on the dopamine system in the striatum in patients with	Psychiatry Res.2018Jun;264:116-118.	Original Article
127	Kanno-Nozaki K, Miura I, Kaneko H, et al.	心身医療科	Influences of the T102C polymorphism in the 5-HT2A receptor gene on the five-factor model of positive and negative syndrome scale and treatment	Psychiatry Res.2018Jun;265:244-245.	Original Article
128	Suzuki Y, Takebayashi Y, Yasumura S, et al.	心身医療科	Changes in Risk Perception of the Health Effects of Radiation and Mental Health Status: The Fukushima Health Management Survey.	Int J Environ Res Public Health. 2018 Jun 10;15(8):pii:E1219	Original Article
129	Xu Q, Fukasawa M, Kawakami N, et al.	心身医療科	Cumulative incidence of suicidal ideation and associated factors among adults living in temporary housing during the three years after the Great East Japan	J Affect Disord.2018 May;232:1-8	Original Article
130	Oe M, Mawda M, Ohira T, et al.	心身医療科	Trajectories of Emotional Symptoms and Peer Relationship Problems in Children after Nuclear Disaster: Evidence from the Fukushima Health Management	Int J Environ Res Public Health. 2018Jan 6;15(1)::pii:E82.	Original Article
131	Fujiwara T, Kono S, Katakura K, et al.	心身医療科	Evaluation of Brain Activity Using Near-infrared Spectroscopy in Inflammatory Bowel Disease Patients.	Sci Rep.2018 Jan 10;8(1):402.	Original Article
132	Kaneko H, Miura I, Kanno-Nozaki K, et al.	心身医療科	COMT Val 108/158 Met polymorphism and treatment response to aripiprazole in patients with acute schizophrenia.	Neuropsychiatr Dis Treat.2018 Jun 22;14:1657-1663.	Original Article
133	Nakano H, Ohira T, Maeda M, et al.	心身医療科	Associations of disaster-related and psychosocial factors with changes in smoking status after a disaster: a cross-sectional survey after the Great East Japan	BMJ Open.2018 Jun 30;8(6):e18943.	Original Article
134	Taku K, Prioleau PG, Anderson DS, et al.	心身医療科	Medical Student Reactions to Disaster after the 2011 Great East Japan Earthquake: Motivation and Posttraumatic Growth.	Psychiatr Q.2018 Aug 25.	Original Article
135	Yukawa T, Iwakura Y, Takei N, et al.	心身医療科	Pathological alterations of chondroitin sulfate moiety in postmortem hippocampus of patients with schizophrenia.	Psychiatry Res.2018 Dec;270:940-946.	Original Article
136	Yabe M, Oshima S, Eifuku S, et al.	心身医療科	Effects of storytelling on the childhood brain: near-infrared spectroscopic comparison with the effects of picture-book reading.	Fukushima J Med Sci. 2018 Dec 8;64(3):125-132.	Original Article
137	Murakami M, Hirotsaki M, Suzuki Y, et al.	心身医療科	Reduction of radiation-related anxiety promoted wellbeing after the 2011 disaster: 'Fukushima Health Management Survey'.	J Radiol Prot.2018 Dec;38(4):1428-1440.	Original Article
138	Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, et al.	心身医療科	Effects of lifestyle on hepatobiliary enzyme abnormalities following the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident: The Fukushima health management survey.	Medicine (Baltimore). 2018 Oct;97(42):e12890	Original Article



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
139	Horikoshi S, Shiga T, Hoshino H, et al.	心身医療科	The Relationship between Mismatch Negativity and the COMT Val108/15Met Genotype in Schizophrenia.	Neuropsychobiology 2018 Oct 16:1-5.	Original Article
140	右田 清志	リウマチ膠原病内科	Serum cytokine profiles and Mac-2 binding protein glycosylation isomer (M2BPGi) level in patients with autoimmune hepatitis.	Medicine (Baltimore). 2018;97(50):e13450	Original Article
141	古谷 牧子	リウマチ膠原病内科	Serum amyloid A1 (SAA1) gene polymorphisms in Japanese patients with adult-onset Still's disease.	Medicine (Baltimore). 2018;97(49):e13394	Original Article
142	佐藤 秀三	リウマチ膠原病内科	Juvenile onset autoinflammatory disease due to a novel mutation in TNFAIP3 (A20).	Arthritis Res Ther. 2018;20(1):274.	Original Article
143	浅野 智之	リウマチ膠原病内科	Adding colchicine to immunosuppressive treatments; a potential option for biologics-refractory adult-onset Still's disease.	BMC Res Notes. 2018;11(1):320.	Original Article
144	古谷 牧子	リウマチ膠原病内科	Tofacitinib inhibits granulocyte-macrophage colony-stimulating factor-induced NLRP3 inflammasome activation in human neutrophils.	Arthritis Res Ther. 2018;20(1):196.	Original Article
145	藤田 雄也	リウマチ膠原病内科	HLA-DQB1 DPB1 alleles in Japanese patients with Adult-onset Still's disease.	Mod Rheumatol. 2018:1-15.	Original Article
146	佐藤 秀三	リウマチ膠原病内科	Clinical features and outcomes in patients with elderly-onset anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis.	Geriatr Gerontol Int. 2018;18(10):1453-1457.	Original Article
147	右田 清志	リウマチ膠原病内科	Familial Mediterranean fever: overview of pathogenesis, clinical features and management.	Immunological medicine. 2018; 41(2): 55-61.	Original Article
148	右田 清志	リウマチ膠原病内科	Induction of anti-PF4/heparin antibodies after arthroplasty for rheumatic diseases.	Fukushima J Med Sci. 2018 Apr 17;64(1):1-8.	Original Article
149	松岡 直紀	リウマチ膠原病内科	Two elderly cases of familial mediterranean fever with rheumatoid arthritis.	Int J Rheum Dis. 2018;21(10):1873-1877.	Case report
150	浅野 智之	リウマチ膠原病内科	Diagnostic value of ultrasonography in synovitis-acne-pustulosis-hyperostosis-osteitis (SAPHO) syndrome: A case report.	Medicine (Baltimore). 2018;97(41):e12725	Case report
151	佐藤 秀三	リウマチ膠原病内科	Behçet disease associated with gastrointestinal amyloidosis manifested as hematochezia: A case report.	Medicine (Baltimore). 2018;97(26):e11153	Case report
152	古谷 牧子	リウマチ膠原病内科	Anti-MDA5 antibody-positive hypomyopathic dermatomyositis complicated with pneumomediastinum.	Fukushima J. Med Sci. 2018;64(2):89-94.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
153	藤田 雄也	リウマチ膠原病内科	Reversible Cognitive Dysfunction in Elderly-onset Systemic Lupus Erythematosus, Successfully Treated with Aggressive Immunosuppressive Therapy.	Intern Med. 2018;57(20):3025-3028.	Case report
154	藤田 雄也	リウマチ膠原病内科	Anti-MDA5 Antibody-positive Dermatomyositis Complicated by Autoimmune-associated Hemophagocytic Syndrome That Was Successfully Treated with Immunosuppressive Therapy and Plasmapheresis.	Intern Med. 2018;57(23):3473-3478.	Case report
155	藤田 雄也	リウマチ膠原病内科	Peripheral Ulcerative Keratitis Associated with Granulomatosis with Polyangiitis Emerging Despite Cyclophosphamide, Successfully Treated with Rituximab.	Intern Med. 2018;57(12):1783-1788.	Case report
156	浅野 智之	リウマチ膠原病内科	The utility of FDG-PET/CT imaging in the evaluation of multicentric reticulohistiocytosis: A case report.	Medicine (Baltimore). 2018;97(33):e11449	Case report
157	菅野 幸紀	眼科	Morphometrical evaluation of the choriocapillaris imaged by swept-	Clin Ophthalmol 2018	Original Article
158	大口 泰治	眼科	Near-infrared and short-wave autofluorescence in ocular	Jpn J Ophthalmol 2018.	Original Article
159	小笠原 雅	眼科	Prognostic factors after aflibercept therapy for typical	Jpn J Ophthalmol 2018.	Original Article
160	富田 隆太郎	眼科	Retinal Microstructure in Poems Syndrome.	Retin Cases Brief Rep 2018	Original Article
161	Kojima Y, Koguchi T, Mizuno K	泌尿器科・副腎内分泌外科	Single Nucleotide Polymorphisms of HAAO and IRX6 Genes as Risk Factors for Hypospadias.	J Urol. 2019 Feb;201(2):386-392	Original Article
162	Haga N, Akaihata H, Hata J, et al.	泌尿器科・副腎内分泌外科	The association between local atherosclerosis of the prostatic artery and benign prostatic enlargement in humans: Putative mechanism of chronic ischemia for prostatic enlargement.	Prostate. 2018 Sep;78(13):1001-1012.	Original Article
163	Yabe M, Ishibashi K, Onagi A, et al.	泌尿器科・副腎内分泌外科	Suppression of SOCS3 enhances TRAIL-induced cell growth inhibition through the upregulation of DR4 expression in renal cell carcinoma cells.	Oncotarget. 2018 Aug 3;9(60):31697-31708.	Original Article
164	Koguchi T, Haga N, Matsuoka K, et al.	泌尿器科・副腎内分泌外科	Atherosclerosis as a predictor of transient exacerbation of overactive bladder symptoms after robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy.	Int J Urol. 2019 Feb;26(2):234-240.	Original Article

計 164件

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査申請から研究実施までの流れ、倫理申請手続きについて 研究実施中に研究者が対応する事項について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 24 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 本法人及び役職員が、産学官連携活動を行うにあたり、発生する利益相反状態を適正にマネジメントする事を目的とする。 利益相反マネジメント体制、審議対象事象等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 17 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 10 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等」について	

「研究を開始する場合」について

(注) 前年度の実績を記載すること。

研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要
研究の目的	研究の概要

(様式第 4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

### 1 研修の内容

#### 1 後期研修プログラムの特徴

- (1) コース制登録者は、コースディレクターの指導により専門医研修を受ける。
- (2) プログラム制では、19ある全ての基本領域で基幹施設として専門研修プログラムを運用しており、希望する専門医資格が取得できるよう、基本領域の各プログラム責任者等と相談の上、最適な計画に基づき研修を受けることができる。
- (3) 当院と研修協力病院が共同で研修を行い、専門医資格取得に必要な多くの症例・症状等を経験できる。
- (4) 大学院生・大学院研究生との併願を認めており、専門医と博士号の同時取得が可能である。

#### 2 後期研修プログラムの管理・運営組織

研修の最終責任者は、当院の病院長であり、研修修了の認定は病院長が行っている。

- (1) 病院長のもとに、後期研修管理委員会を設置し、次の事項を行うこととする。
  - ア 後期研修プログラムの全体的な管理
  - イ 後期研修者の全体的な管理
  - ウ 後期研修者の研修状況の評価
  - エ 採用時における後期研修希望者の評価
  - オ 後期研修後及び中断後の進路について、相談等の支援を行うこと
- (2) 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
  - ア 病院長
  - イ 副病院長（教育研修担当）
  - ウ 部長会で選任したコースディレクター 4名
  - エ 医療人育成・支援センター 臨床医学教育研修部門長
  - オ 事務局次長（業務担当）
  - カ その他病院長が必要と認める者
- (3) 委員長は必要があると認める場合、後期研修管理委員会のもとに、コースディレクター会議を招集することができる。
- (4) 委員長は、研修協力病院等との円滑な連絡調整等を行うため、研修協力病院・施設連絡会議を招集することができる。

#### 3 研修期間

- (1) 研修期間は、卒後臨床研修修了後 4 年以内とし、協力病院での期間を含む。ただし、原則として研修期間のうち 1 年以上は、当院において研修する。
- (2) (1) にかかわらず、出産・留学等により、研修を中断した期間は、研修期間に含めない。

#### 4 指導体制

後期研修者は研修期間中、後期研修管理委員会において管理され、コースディレクター・副コースディレクターの指導のもと研修を受ける。

#### 5 後期研修の評価

各コースで定めた評価項目に基づき、コースディレクター・副コースディレクターは評価を行う。研修終了時に、この評価資料をもとに、後期研修管理委員会が最終的な評価を行い、病院長に上申する。

病院長は研修を修了したと認定された後期研修者に対して、病院長名で後期研修修了証を授与する。



## 2 研修の実績

研修医の人数	141.1人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹石 恭知	循環器内科	部長	32年	
池添 隆之	血液内科	部長	27年	
大平 弘正	消化器内科	部長	32年	
右田 清志	リウマチ・膠原病内科	部長	36年	
風間 順一郎	腎臓・高血圧内科	部長	32年	
島袋 充生	糖尿病・内分泌代謝内科	部長	32年	
金井 数明	脳神経内科	部長	20年	
柴田 陽光	呼吸器内科	部長	28年	
濱口 杉大	総合内科	部長	24年	
塩 豊	呼吸器外科	部長	25年	
河野 浩二	消化管外科	部長	32年	
丸橋 繁	肝胆膵・移植外科	部長	25年	
大竹 徹	乳腺外科	部長	29年	
田中 秀明	小児外科	部長	27年	
鈴木 眞一	甲状腺・内分泌外科	部長	36年	
横山 斉	心臓血管外科	部長	36年	
齋藤 清	脳神経外科	部長	37年	
紺野 慎一	整形外科	部長	35年	
小山 明彦	形成外科	部長	28年	
藤森 敬也	産科	部長	31年	
添田 周	婦人科	部長	21年	
細矢 光亮	小児科	部長	36年	
菊田 敦	小児腫瘍内科	部長	38年	
石龍 鉄樹	眼科	部長	35年	
山本 俊幸	皮膚科	部長	31年	
小島 祥敬	泌尿器科・副腎内分泌外科	部長	24年	
室野 重之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	部長	27年	
矢部 博興	心身医療科	部長	36年	
伊藤 浩	放射線科	部長	30年	
鈴木 義行	放射線治療科	部長	24年	
村川 雅洋	麻酔・疼痛緩和科	部長	39年	
橋本 優子	病理診断科	部長	27年	
長谷川 博	歯科口腔外科	部長	31年	
伊関 憲	救急科	部長	24年	
大井 直往	リハビリテーション科	部長	37年	
風間 順一郎	検査部	部長	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

任意のため報告は割愛

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

任意のため報告は割愛

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

当院は「がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院」に該当せず。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 鈴木 弘行
管理担当者氏名	医療情報部長 門馬 智之

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	医療情報部等	患者每または、記録毎に分類し管理・保管している。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療安全管理部	
		高度の医療の研修の実績	教育研修支援課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	閲覧実績	病院管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携・相談室	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況				
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況				
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況				

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全使用部会
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全使用部会
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全使用部会
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全使用部会
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全使用部会
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	病院管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部等
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部等
		管理者が有する権限に関する状況	病院管理課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 鈴木 弘行		
閲覧担当者氏名	病院管理課長 大槻 立志		
閲覧の求めに応じる場所	きぼう棟3階 病院管理課		
閲覧の手続の概要			
閲覧の請求があった場合は、院内の規定に基づき諸記録の閲覧もしくは提供を行っている。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医 師	延 0件
	歯 科 医 師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構認定 (平成29年12月1日)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院のホームページ、パンフレット等で先進医療や各診療科の内容について情報の発信を行っている。また、法人として企画広報戦略本部を設置し、効果的な広報・情報発信の方法について検討を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 各科横断的なカンファランスが多数有 (呼吸器腫瘍カンファランス (呼吸器内科・外科、放射線科、腫瘍内科のそれぞれの医師および医療スタッフで構成) その他各科cancer board、小児腫瘍カンファランスなど)	

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2 医療安全管理委員会その他の組織に関する基本的事項</li> <li>3 医療に係る安全管理のための従事者に対する研修に関する基本方針</li> <li>4 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 (高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「基本的考え方」、ガイドライン等を参考に実施することを含む。)</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員会の管理及び運営規定の策定・改正</li> <li>2 医療安全対策の承認、決定</li> <li>3 重大な問題が発生した場合の原因分析、改善策の立案と実施及び職員への周知</li> <li>4 医療安全に関するマニュアルの改訂</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：</p> <p>職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図るため、全職員を対象に下記の研修を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 外部講師 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構) による医薬関係者からの副作用等報告制度に関する講話</li> <li>2 外部講師 (他大学教員) による病院の臨床倫理的課題に関する講話</li> <li>3 医療安全、感染対策、医薬品、医療機器、災害医療に関すること (年2回)</li> </ol>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 当院で発生した事故を委員会に報告する。</li> <li>2 当院の「医療事故防止マニュアル」に従い事例の収集・分析を行う。把握された問題点について病院組織として改善策を策定し、必要に応じ実施状況を調査する。これらの情報は院内に周知を図っている。</li> <li>3 重大な事故発生の場合は、速やかに管理者へ報告する。</li> </ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染管理に関する基本的な考え方</li> <li>2 院内感染管理のための委員会等</li> <li>3 院内感染管理のための職員研修</li> <li>4 感染情報等に基づく院内感染管理を目的とした改善方策</li> <li>5 院内感染発生時等の対応</li> <li>6 患者等に対する本指針の閲覧</li> <li>7 その他</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎月の耐性菌検出状況及び感染症発生状況報告</li> <li>2 毎月のICTラウンド結果報告</li> <li>3 指定抗菌薬長期使用者報告</li> <li>4 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 活動報告</li> <li>5 各種院内感染対策マニュアル改訂案の協議・承認</li> <li>6 アウトブレイク事例・ICT介入事例報告</li> <li>7 各種サーベイランス結果報告</li> <li>8 職員研修実施状況報告</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 22 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて)：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新採用者・中途採用者・復職者研修：(標準予防策・感染経路別予防策・職業感染予防策等の講義及び実習)</li> <li>2 院内感染対策研修 (外部講師)：微生物伝播における医療環境の役割と感染対策</li> <li>3 医療安全・感染管理合同研修：第1回：血液培養と耐性菌 第2回：当院の抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 活動について</li> <li>4 リンクナーススキルアップ研修 (CRBSIサーベイランスについて)</li> <li>5 第1種感染症病室説明会及び防護具着脱訓練</li> <li>6 感染管理自己学習コース： (標準予防策、感染経路別予防策、環境対策、針刺し等血液曝露対策)</li> <li>7 E-learning (スタンダードプリコーション・感染経路別予防策)</li> <li>8 BSI防止研修</li> <li>9 新採用看護助手研修 (病院で働くために行って欲しいこと)</li> <li>10 委託職員研修 (感染予防の基礎知識等)</li> </ol> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ICTラウンドによる現場状況チェックと改善指導・介入及び結果確認 (定例：1回/週、その他耐性菌新規検出時随時ラウンド実施)</li> <li>2 各種感染対策マニュアルの見直し・改訂作業</li> <li>3 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) による抗菌薬の使用状況把握と抗MRSA薬のTDM実施 及びこれらの情報に基づく抗菌薬コンサルテーションの実施</li> <li>4 BSI/UTI/VAE/耐性菌のサーベイランスによる問題抽出と分析、対策のフィードバック</li> <li>5 インフルエンザ発生動向調査および院内曝露患者への予防投与、ベッドコントロール、</li> <li>6 面会制限等、アウトブレイク予防対策の実施</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年6月2日 医療安全管理研修会「医療関係者からの副作用報告制度の概要と今後～副作用報告の推進に向けて」</li> <li>2 平成30年7月31日、平成31年2月28日 医療安全管理合同研修会「薬剤に関すること」</li> </ol> </li> </ul>	
<p>③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：           <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂</li> <li>2 「セルフチェック表」による業務の実施状況の確認</li> <li>3 院内ラウンドによる実施状況の確認と指導</li> </ol> </li> </ul>	
<p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： アジドチミジン(azidothymidine, AZT)点滴用、シロップ</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：           <ol style="list-style-type: none"> <li>1 未承認医薬品の使用の適否等を決定する部門として医療安全管理部に未承認医薬品評価室（室長：医薬品安全管理責任者）、未承認新規医薬品評価委員会を設置している。</li> <li>2 薬剤部副部長1名を医療安全管理部に専任配置している。</li> <li>3 医薬品情報管理室の専門薬剤技師を医薬品安全管理担当者に指名し、当該業務に従事している。</li> <li>4 診療科の部長は未承認新規医薬品を使用したすべての症例について、定期的に未承認医薬品評価室に報告する。</li> <li>5 未承認医薬品評価室は定期的に診療録等の確認を行い、その内容を病院長に報告する。</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 190 回
<p>・ 研修の主な内容：                  輸液ポンプ等の使用頻度の高い医療機器に関しては、医療安全管理合同研修会を年2回開催している特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器（人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器等）を中心とした研修会を部署ごとで実施している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療機器の始業時や終業時の日常点検と定期点検</li> <li>2 点検報告書の作成と保管</li> <li>3 外部委託点検の実施</li> </ol>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p style="padding-left: 40px;">平成30年度の使用事例なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 PMDAやm3等の医療専門サイトを毎日確認し、重要なお知らせについては個別にメールが送られるよう登録し、情報の収集を行っている</li> <li>2 周知が必要な情報や院内インシデントの事例に対する対策を周知するため、「臨床工学センターからののお知らせ」を作成し院内に配布し、安全性情報の伝達を行っている</li> </ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況 ・責任者の資格 (医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
「福島県立医科大学附属病院医療安全管理指針」により医療安全管理責任者が、医療安全管理部門、医療事故防止対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括するものとしている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (4名) ・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 入手した情報については、毎月DIニュースで定期的に院内に周知している。また緊急性のある情報は、院内緊急メール、電子カルテ掲示板、DIニュース号外、院内報等の適切な媒体により随時周知している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 1 診療科の部長は未承認新規医薬品を使用したすべての症例について、定期的に未承認医薬品評価室に報告する。 2 未承認医薬品評価室は定期的に診療録等の確認を行い、その内容を病院長に報告する。 3 薬剤部の病棟・外来、調剤、注射及び製剤担当者は当該使用に該当すると判断した場合には、「適応外・禁忌等の処方に係る報告票」に必要事項を記載し、医薬品安全管理担当者に提出する。 4 医薬品安全管理担当者は、報告された症例を毎月確認し、その内容を薬剤部リスクマネージャー、医療安全管理部担当薬剤師及び医薬品安全管理責任者に報告する。 5 医薬品安全管理責任者は、当該情報を医療事故防止対策委員会等に報告する。 6 担当者の指名の有無 <input checked="" type="radio"/> 有・無 7 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 ) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 入院患者から無作為抽出による外部委託による説明書・承諾書点検を6月と12月に実施 (平成30年度 800件×2=1,600件) した。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録については、「福島県立医科大学附属病院診療録管理要綱」において、医療情報部長を管理責任者とし、管理方法を定め適切な管理を行っている。</p> <p>記載内容については、福島県立医科大学附属病院診療録作成指針を定め、これに沿った内容となっているかを、診療情報管理士（委託職員）が監査し、不備があった内容を各診療科に通知し、医師による修正を行っている。</p> <p>また、多職種による診療録の質的監査を行い、わかりやすい診療録になっているか等の点検を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（9）名、専任（0）名、兼任（16）名  うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（7）名  うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名  うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（6）名  （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療事故防止対策委員会及び同設置要綱に規定する各種委員会等の運営に関する事</li> <li>2 医療事故防止マニュアルの改訂に関する事</li> <li>3 インシデント情報の収集・整理に関する事</li> <li>4 院内巡回に関する事</li> <li>5 医療安全研修会に関する事</li> <li>6 医療安全相談に関する事</li> <li>7 褥瘡対策に関する事</li> <li>8 院内死亡事例の調査に関する事</li> <li>9 内部通報窓口に関する事</li> <li>10 インフォームド・コンセントの適切な運用に関する事</li> <li>11 有害事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認に関する事</li> <li>12 前号に係る患者又はその家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導に関する事</li> <li>13 医療安全に係る連絡調整に関する事</li> <li>14 医療安全の確保のための対策の推進に関する事</li> <li>15 医療安全に資する診療内容のモニタリングに関する事</li> <li>16 医療安全に関する職員の意識の向上の状況確認に関する事</li> <li>17 その他医療安全に必要な業務に関する事</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：

該当案件については、担当部門である「高度管理医療機器・高難度新規医療技術評価室」が診療科より申請を受けることとしている。申請があった場合には、高度管理医療機器・高難度新規医療技術評価委員会を開催し、その意見を踏まえ当該医療技術の提供の適否等について決定している。

当該医療技術の提供後には、診療科に報告を求め、申請内容や委員会の意見に沿って適切に提供されているか担当部門が確認している。

平成30年4月から平成31年3月の間に4回委員会を開催し、5件の申請案件について審議した。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：

該当案件については、担当部門である「未承認医薬品評価室」が診療科より申請を受けることとしている。申請があった場合には、未承認医薬品評価委員会を開催し、その意見をもとに当該医薬品の使用の適否等について決定している。

当該医薬品の使用後には、診療科に報告を求め、申請内容や委員会の意見に沿って適切に提供されているか確認することとしている。

平成30年4月から平成31年3月の間に4回の委員会を開催し、4件の申請案件について審議した。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年338件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年82件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

毎月の死亡事例に対し医療安全管理部長・副部長の医師がカルテ・死亡診断書・サマリー等を調査する。判断に迷う場合等は医療安全管理部内で協議し、必要に応じて当該診療科・医療事故防止対策



委員等の意見を参考にする。医療事故に該当する疑いがあると判断された場合は、当該科に医療クオリティ審議依頼書を提出させる。調査結果は、翌月の医療事故防止対策委員会にて報告する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：九州大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：名古屋大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
  - 1 「患者確認が単一識別子により行われているが、患者確認を防止するためには2識別子を用いることが必要であり、手順の見直しが望まれる」との助言を受け、平成30年度の医療事故防止マニュアル改訂において、すべての職員が2つ以上の識別子で患者確認を行うことを明記し、周知した。
  - 2 「院内の巡回について、年間もしくは四半期ごとのテーマを決めて巡回するとよりよい」との助言を受け、令和元年度は事例発生後の確認巡回と別に、年間計画に沿った巡回を行い、全ての部署を多職種で巡回することとした。
  - 3 「外部主導型の重大医療事故調査の経験が乏しい」との助言を受け、平成31年1月、有害事象外部評価委員会について委員長を外部委員とするなど見直しを行った。また、平成31年1月、医療安全管理体制について外部有識者を委員長として検討を行う医療安全検討委員会を設置した。
  - 4 「薬剤部が各診療科等に配布する医薬品適正使用のための注意喚起情報等(DIニュース)について、周知状況を確認することが望まれる」との助言を受け、DIニュースを配布した際には各診療科等から「周知状況報告書」を回収して周知状況を確認することとした。
  - 5 「高難度新規医療技術に係る説明・同意文書において、病院としての実績、体制の整備及び術者の資格・経験等を開示すべき」との助言を受け、平成30年11月審査分以降は、助言のあった内容を説明・同意文書に反映している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

「病院の患者等相談等受付要領」に従い、患者からの医療安全に関すること・医療事故に関する相談を受け付ける。また、医療連携・相談室で受けた患者からの相談に対して医療安全に関する対応が必要と判断された場合は、医療安全管理部に連絡をいただき、審議が必要な場合は医療クオリティ審議のうえ、結果を患者・家族に報告する。

相談内容と対応については、医療事故防止対策委員会で報告する。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
  - 安全管理

職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図るため、全職員を対象に下記の研修を実施した。

  - 1 外部講師（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）による医薬関係者からの副作用等報告制度に関する講話



- 2 外部講師（他大学教員）による病院の臨床倫理的課題に関する講話  
3 医療安全、感染対策、医薬品、医療機器、災害医療に関すること（年2回）

○感染制御

平成30年度、全22回実施し、週3日以上勤務している全職員にて2回以上受講を確認。

○医療機器安全管理

医療機器新規導入時研修63回、医療機器定期研修190回実施

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○病院管理者

研修名 平成30年度特定機能病院管理者研修（継続・1日間）

期間 平成30年12月2日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

○医療安全管理責任者

研修名 平成30年度特定機能病院管理者研修

期間 平成30年9月17日～18日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

○医薬品安全管理責任者

研修名 平成30年特定機能病院管理者研修（継続・1日間）

期間 平成30年12月2日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

研修名 平成30年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会

期間 平成31年1月12日

主催者 一般社団法人日本病院薬剤師会

○医療機器安全管理責任者

研修名 平成30年度特定機能病院管理者研修（継続・1日間）

期間 平成31年2月6日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医師免許を有している者</li> <li>2 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有している者</li> <li>3 組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有している者</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 福島権利医科大学ホームページで公表</li> </ul>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 福島県立医科大学ホームページで公表</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
斎藤 清	附属病院長		役職指定 選考会議に関する細則第3条第1項第1号	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
戸田 光昭	事務局長	○	役職指定 選考会議に関する細則第3条第1項第2号	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
竹石 恭知	医学部長		役職指定 選考会議に関する細則第3条第1項第3号	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
太田 操	看護学部長		役職指定 選考会議に関する細則第3条第1項第4号	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

井上 仁	福島県病院協会会長		役職指定 選考会議に関する細則第3条第1項第5号	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
中島 博	福島県総務部次長		役職指定 選考会議に関する細則第3条第1項第5号	有・ <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、その他病院の経営計画、運営管理の調整・協議</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>院内イントラネットにて周知</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・(有)）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（(有)・無）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
鈴木 弘行	○	医師	病院長
佐治 重衡		医師	副病院長
鈴木 義行		医師	副病院長
大竹 徹		医師	副病院長
風間 順一郎		医師	副病院長
渡邊 美恵子		看護師	副病院長
和泉 啓司郎		薬剤師	薬剤部長
菅井 敏美		事務職	事務局次長（業務）
菊地 健一		その他（外部）	法人理事（経営担当）

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・**無**）
- ・ 公表の方法
  
- ・ 規程の主な内容  
病院の経営に関すること  
病院の管理運営に関すること  
病院の人事に関すること  
病院の予算案の作成及び執行に関すること
  
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
各担当の副病院長が管理者の職務を補佐する  
副病院長は5名体制（以下の担当に分かれる）
  - (1) 総務・企画・地域連携に関すること
  - (2) 教育・研修に関すること
  - (3) 中央診療施設の機能強化及び医療情報に関すること
  - (4) 安全管理・感染制御・事故防止・質管理・災害医療・病院機能再編に関すること
  - (5) 患者サービス・病院機能改善に関すること

その他、法人理事（経営担当）を病院の管理及び運営を行うための合議体に参画させ、意見等の聴取を行っている。
  
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
院内に「運営・管理部」を設置し、院内及び外部の専門研修等に参加させ、職員の育成に努めている。



規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況					有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：                  病院の業務状況について管理者等から外部委員へ報告し、委員が意見を述べること。                  業務等についてどのように行われているのか現場確認を行うこと。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法： 病院ホームページにおいて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
佐藤 武寿	福島県医師会	○	下記参照	有・無	1
田中 明	国立大学法人福島大学			有・無	2
渡辺慎太郎	弁護士			有・無	1
委員の選定理由 佐藤 武寿 委員：医療に係る安全管理に関する識見を有する者 田中 明 委員：医療を受ける者、その他医療従事者以外の者 渡辺慎太郎 委員：法律に関する識見を有する者					

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
  3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

平成18年4月1日に監査室を設置するとともに、監事監査及び内部監査を実施している。

- ・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 ( 有 ・  無 )
- ・ 公表の方法 法人ホームページでの掲載予定。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況            役員会において病院の管理運営状況を監督している。            月1回実施し、病院の月次決算を報告しているほか、            予算・決算、組織・人事及び医療事故等については随時報告している。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年12回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年12回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法 ホームページにおいて公表</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称： ー			
会議体の委員名簿 ー			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 リスクマネージャー会議、医療安全ニュース、医療安全管理研修会にて周知を図っている。</li></ul>